



福知山線列車脱線事故から18年 今こそ命を価値基軸に、安全で安心して働ける職場を再確立しよう!

4月25日、福知山線脱線事故から18年が経過しました。事故では乗客・運転士107名が命を落とし、562名が重軽傷を負いました。18年の年月を経てもご遺族や被害に遭った方々の苦しみや悲しみが消えることはありません。私たちは改めて命の重みについて自覚し、安全な鉄道のあり方について考えなくてはなりません。

事故の直接的な原因は速度超過ですが、航空鉄道事故・調査委員会(当時)は、「会社による懲罰的日勤教育や懲戒処分等の運転士管理方法が関与した可能性が考えられる」と事故の背後要因を指摘しています。そして、事故後JR西日本では事故やミスで列車が遅れても処分しない制度を導入したり、再教育の日数を明確化するなど、日勤教育の見直しが他社でも進んでいます。



「懲罰的日勤教育や懲戒処分等の管理方法」が事故の要因として指摘されている!



懲罰的日勤教育や威圧的言動は社員を追い込み萎縮させ、原因究明や再発防止も出来なくなる!



ハラスメント・人権侵害は許さない!!

一方、私たちの職場はどうでしょうか?

宇都宮運輸区や国府津運輸区では懲罰的な日勤教育やハラスメント、不当労働行為により仲間が耐え難い苦痛を受け、入院に追い込まれる事態が発生していますが、会社は「適正な指導」と正当化しています。そして、営業職場でも一部管理者の不安全行動や威圧的な言動が相次いでいます。

また、JRバス関東では、事故の発生毎にポイントを加算し、基準に達した時点で懲戒処分を決定する「ポイント管理」が導入される等、懲罰的日勤教育と懲戒処分と責任追及による社員管理が職場を覆い尽くし、その企業体質は「福知山線事故前夜」であると言わざるを得ません。

命と安全を守り抜くため、このような企業姿勢を許さず、職場から安全哲学を再確立し、安全で安心して働ける職場を創り出していこう!

懲罰的日勤教育と責任追及による社員管理では命と安全を守ることは出来ない!

事故の教訓から学び、懲罰的日勤教育を許さず「責任追及から原因究明へ」の安全哲学を再確立し、安全で安心して働ける職場を実現しよう!